

美術Ⅱ 学習指導案 題材名 「自画像を描こう」－ICTを使った導入

題材設定の理由

日頃人物画を描く機会をもたずにきた大方の生徒たちにとって、自画像は自分を描くということ以前に、人の頭部を平面上にそれらしく表現すること自体が難しい。

特に描写力のない生徒は動きのない証明写真のようなポーズの平坦な作品になりがちである。そこで、昨年までは少しでも自分らしさを表現するために、描写力が及ばなくとも、色彩の雰囲気や背景に自分の好みを反映させることで他の作品との違いを出させようと、背景への工夫を制作上の条件とした。

しかし、それはある意味邪道であって本来の「自己を見つめる」という方向に深まりにくいことが反省点であった。今回は、まずデッサンの段階で目・鼻・口のパーツを描写させ、「頭部」の奥行きを立体として把握させるために油粘土でミニチュアの頭部を作らせた。いよいよ油彩に入る段階で、今一度「自画像」に対する意識付けをさせたいと考え、パワーポイントを使った鑑賞教材を取り入れた。

題材の目標

自画像は西洋でのルネサンス以降の発祥から今日に至るまで、さまざまな画家によって描かれてきた。パワーポイントを使って色々な作品を鑑賞し、またゴッホの自画像を例に取り、画家が折々に自画像を描いていることを知る。さらに、TV番組（NHK ETV特集「日本人と自画像 東京藝術大学4800枚の証言」）から抜粋したビデオを見て、同年代の学生やかつて学生として卒業制作の自画像に取り組んだ卒業生の自画像に対する思い入れを知り、自画像を描く意味について考え、自画像制作に向き合う姿勢を養う。

指導計画 20分

時間	指導計画	活動内容 ○評価
3分	パワーポイントによる鑑賞 『自画像を描こう』開始。 「人は何故自画像を描くのだろう」－ 様々な作家が、自己を見つめるために 描いてきたことを知らせる。	全員スクリーンの方に向く ゴッホ・レンブラント・村山魁多・ピカソ ラファエロ・ダリ・ヤンセンの自画像を見な がら、今の自分について考える。
5分	「ゴッホの自画像」 【坊主としての自画像】 坊主としての自画像 	ゴッホが多く自画像を描いていたことを 知る。

	【画家としての自画像】 画家としての自画像  僕は絵描きだ。 この自画像は画家としての自意識を表わそうとしているんだ 【耳を切った自画像】  ゴーギャンとの共同生活はうまくいかなかった・・・ 僕は自分で自分の耳切ったよ 壁に浮世絵が貼ってあるのがわかるかな 【包帯をしてパイプをくわえた自画像】 包帯をしてパイプをくわえた自画像  これも耳を切った頃の自画像だ。僕はこの後だんだん病んでいく 自画像を描くことにはどのような意味があるのかさらにビデオを見て考えさせる。 12分 NHK「日本人と自画像—東京芸術大学4800枚の証言」から抜粋した5人のエピソードを見る。 【佐藤一朗先生の話】 「一筆一筆置いていくたびに自分の顔を見る。『自分って何だろう？こんな顔をしていたのか。』と、見るわけですから、その表情の奥に存在している自分自身が見えてくる、自己発見があるのではないか。」	パレットを持ち画家としてのアイデンティティーを示す姿からゴッホの気持ちを考える。 ゴーギャンとのエピソード、日本趣味について知る。 病んでいくゴッホの変化を感じる。 ゴッホがその時々自分の姿を描いていたことを知る。 ○ゴッホの気持ちやなぜ自画像を描き続けたかを考えることができたか。 自画像を描くとはどういうことかを考える。
--	--	--



【牧野真耶さん】

自分が見ても友達がみても「自分」に見える自画像が描きたい。



【日高安典】

目のない自画像一戦時下で未来に希望を持ってない時代を表わしている。



【十時好孝さん】

受験生時代の自画像が一番自分を見つめようとしていてよかった。



外見も内面も「自分」に見えるまで何度も描き直し追究する姿を知る。

自画像において「眼」は特に重要な意味を持つことを理解する。

現役時代、一浪、二浪、入学後に描いた4枚の自画像を比較して、その時の自分と真に真面目に対峙していた19歳の頃の作品の他との違いを感じ取る。

	【山本磨理さん】 亡くなった恋人のためにその時の自分を描き、自分の作品が永久に保存されることで、亡くなった人を記憶にとどめたいと思った。  ビデオ終了 ワークシートに記入させる。	人それぞれ違う思いで自画像を描いていたことを知る。 ○自画像を描く意味についてどう考えたか、これからどのような自画像を描きたいかをしっかり書く。
--	---	--